

ふるさと 資料紹介

= (38) =

古文書にみる
近世庶民のくらし⑥

江戸時代の教科書

左の資料には「商売往来」という文字が見えますが、江戸時代にはこのほかに「百姓往来」「手紙往来」など「往来」の名の付くものがありました。「往来」とは、手本、教科書という意味で、寺子屋や師匠の家で使用したものです。商売往来は、「およそ商売に扱う」文字が集めてあり、百姓往来には、農家に必要な文字が集めてあります。

名前を書いた「人名付」、近村の名を書いた「村名付」などもありました。

この地方では、大体庄屋、年寄、組頭などの村方二役格の家が決まっていて、それらの家が回り持ちで役についていたようです。したがって、それらの家の子供は、無理にでも覚えさせられたわけです。

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。

（平成六年七月分）

- シエイクスピア全集
（杉野孝二さん／名古屋市）
- 露天商の旗他一点
（堀部光洋さん／蜂屋町）
- 白炭窯の用具他六点
（藤掛元さん／三和町）

博物館建設のため各種の資料を収集しています。社会教育課文化係（内線二六二）まで情報をお寄せください。

商賣性来

丸商賣扱扱

文字負扱扱

（福田家文書・部分）

ふるさとの宝ものみっけ！